

A decorative graphic on the left side of the page, featuring a series of overlapping squares in various shades of blue and purple, creating a stepped, staircase-like effect.

2010年3月期 第2四半期 決算概要

2009年12月

稲畑産業株式会社

2010年3月期 第2四半期 決算総括

<ポイント>

- 売上高は、主力の情報電子や合成樹脂事業において一部に回復の兆しがみられましたが、円高の影響もあり、対前年同期比26.3%減の1,895億円
 ⇒円高による影響額114億円
- 営業利益は、利益率の改善、経費削減等があったものの、売上高の減少に伴い、対前年同期比69.4%減の10億円
 ⇒期初予想比37.3%増
- 経常利益は、持分法による投資損失等の増加により、対前年同期比76.1%減の10億円
 ⇒期初予想比106.0%増
- 純利益は、前年同期にあった事業整理損失引当金繰入額がなくなったこと等により、対前年同期比8億円増の4億円
 ⇒期初予想比42.7%増

連結	2008年度 第2四半期 実績	2009年度 第2四半期 実績	前年同期比	2009年度 第2四半期 期初予想
売上高	2,570億円	1,895億円	△26.3%	1,920億円
営業利益	35億円	10億円	△69.4%	8億円
経常利益	43億円	10億円	△76.1%	5億円
四半期純利益	△4億円	4億円	—	3億円
1株当り 四半期純利益	△6円25銭	6円58銭	—	4円61銭

■ 2010年3月期 第2四半期 B/S

①景気底入れに伴う売上債権及び仕入債務等の増 ②運転資金減少に伴う借入金の減

単位:百万円

(資産の部)	09/03	09/09	増減	(負債／純資産の部)	09/03	09/09	増減
現金及び預金	11,247	6,150	△5,096	支払手形及び買掛金	66,811	75,235	8,423
受取手形及び売掛金	104,197	114,312	10,114	短期借入金	49,499	37,903	△11,595
棚卸資産	27,477	23,014	△4,462	その他流動負債	9,088	8,092	△996
その他流動資産	10,746	6,546	△4,200	長期借入金	14,774	17,238	2,463
有形固定資産	11,765	11,759	△5	その他固定負債	11,504	12,356	852
無形固定資産	4,724	5,761	1,036	株主資本	55,971	55,832	△138
投資有価証券	38,729	46,508	7,779	評価・換算差額等	6,741	13,088	6,346
その他固定資産	6,390	6,310	△79	その他純資産	886	616	△269
資産合計	215,279	220,364	5,085	負債純資産合計	215,279	220,364	5,085

2010年3月期 第2四半期 事業セグメント別売上高

情報電子 ⇒ 対前年同期比 $\Delta 20.2\%$ 203億円減

- ✓ 主力の液晶関連が概ね前年同期並みの展開
- ✓ インクジェット関連と複写機関連は、円高の影響やカラーコピー使用量の減少により低迷
- ✓ 太陽電池関連は欧州を除き苦戦

化 学 品 ⇒ 対前年同期比 $\Delta 29.7\%$ 116億円減

- ✓ 機能化学品で、はエンジニアリングプラスチックなどの樹脂原料が大幅に減少した一方、汎用樹脂向けの樹脂添加剤は回復傾向
- ✓ ライフサイエンス関連では、ジェネリック医薬品向けの原薬や中間体が順調に推移し、減少幅は比較的緩やか

合成樹脂 ⇒ 対前年同期比 $\Delta 31.2\%$ 287億円減

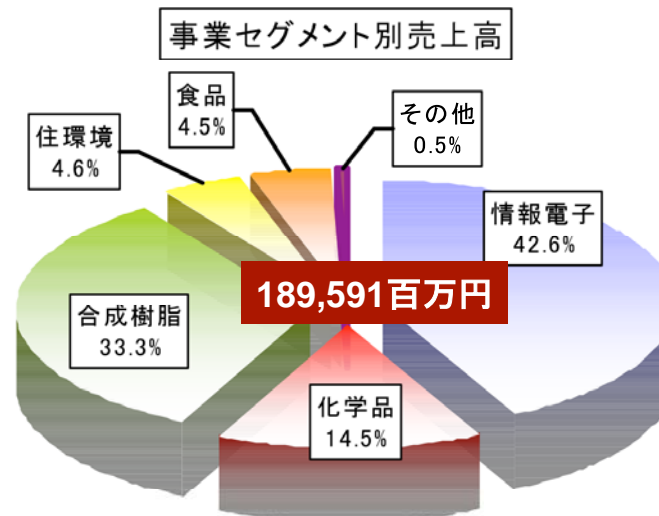
- ✓ 海外では東南アジア、北東アジアで第2四半期以降回復傾向
- ✓ 高機能樹脂や汎用樹脂については、自動車部品向け樹脂の販売に多少の回復がみられたものの、依然厳しい状況
- ✓ フィルム関連は、冷夏の影響等で荷動きが悪く低調に推移

住 環 境 ⇒ 対前年同期比 $\Delta 20.6\%$ 22億円減

- ✓ 建築・不動産不況の長期化に加え、新築住宅着工戸数の大幅減少や竣工物件の値下げなどにより、厳しさは増加
- ✓ 事業・生産能力の再編に向けた動きが活発化する中、競争力のある商品の企画販売に注力

食 品 ⇒ 対前年同期比 $\Delta 32.4\%$ 40億円減

- ✓ 水産物は、回転ずし向け販売は比較的堅調である一方、サーモン事業の縮小・見直しにより減少
- ✓ 農産物は主力であるブルーベリーの価格下落により減少
- ✓ 畜産事業からは撤退



2010年3月期 第2四半期		
	売上高(百万円)	前年同期比(%)
情報電子	80,763	$\Delta 20.2$
化学品	27,475	$\Delta 29.7$
合成樹脂	63,199	$\Delta 31.2$
住環境	8,734	$\Delta 20.6$
食 品	8,478	$\Delta 32.4$
その他	939	$\Delta 32.3$
合 計	189,591	$\Delta 26.3$

2010年3月期 第2四半期 事業セグメント別営業利益

情報電子 ⇒ 対前年同期比 $\Delta 49.4\%$ 7億円減

- ✓ 液晶関連を中心に、前年同期比で取扱数量は一部増加傾向にあるが、価格下落等の影響もあり減少

化学 品 ⇒ 対前年同期比 3億円減

- ✓ ライフサイエンス関連の減少は比較的緩やかであった一方、昨年来の不況の影響から機能化学品関連が大幅に落ち込んだこと等により減少

合成樹脂 ⇒ 対前年同期比 $\Delta 80.3\%$ 11億円減

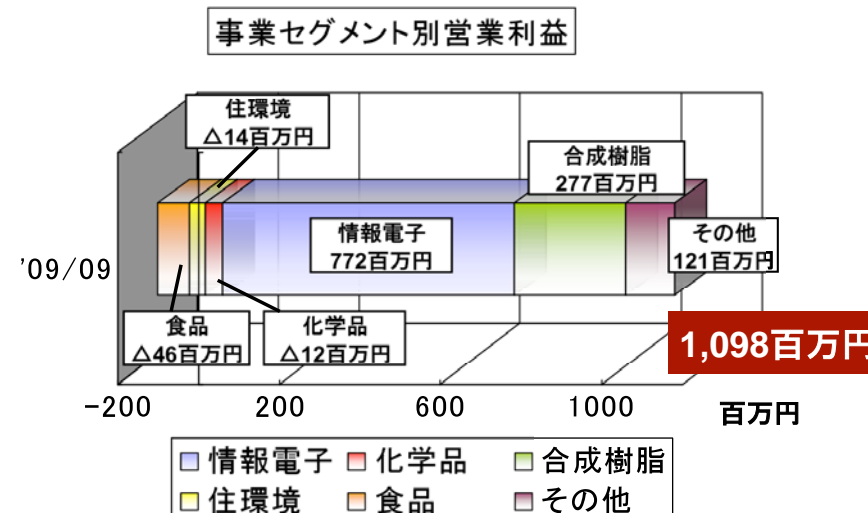
- ✓ 自動車部品向け樹脂の販売に多少の回復が見られたほか、新規開拓による販売も増加したものの、全体としては依然、厳しい状況が続き減少

住 環 境 ⇒ 対前年同期比 7百万円増

- ✓ 建築・不動産不況の影響により、全般に低調

食 品 ⇒ 対前年同期比 1億円減

- ✓ 売上の減少に加え、ブルーベリーの価格下落等により減少
- ✓ 在庫処理の目途がついたことにより粗利率は改善



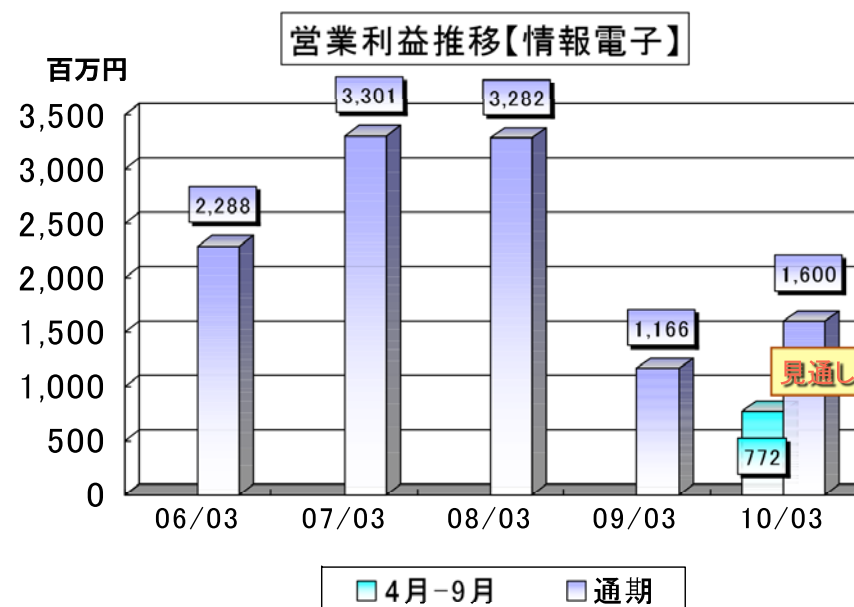
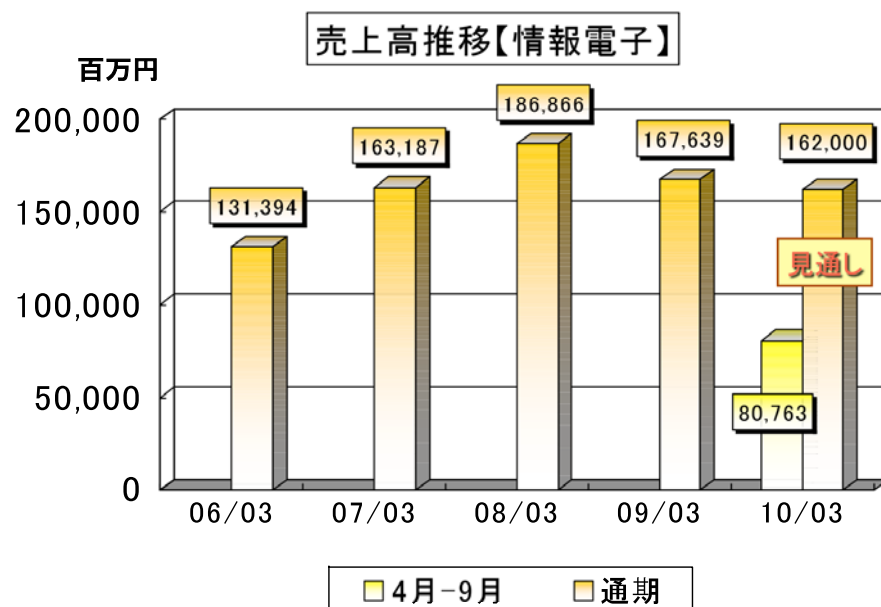
2010年3月期 第2四半期		
	営業利益(百万円)	前年同期比(%)
情 報 電 子	772	$\Delta 49.4$
化 学 品	$\Delta 12$	—
合 成 樹 脂	277	$\Delta 80.3$
住 環 境	$\Delta 14$	—
食 品	$\Delta 46$	—
そ の 他	121	$\Delta 36.7$
合 計	1,098	$\Delta 69.4$

※前年同期 化学 品 374 住環境 $\Delta 22$ 食品 105

2010年3月期 第2四半期 主要事業の個別概況(情報電子)

売上高 対前年同期比 $\Delta 20.2\%$ 203億円減少

- 主力の液晶関連が前年同期並みの展開
- 北東アジアでは、中国政府の内需振興策が寄与し、液晶テレビを中心とする家電製品の国内出荷が順調
- 偏光板は数量ベースでは前年同期を若干上回るものの、金額ベースでは価格下落の影響等により弱含み
- インクジェット関連と複写機関連は、円高の影響やカラーコピー使用量の減少により低迷
- 半導体関連は各国の景気刺激策等により一部に回復傾向がみられたものの、自動車向けは依然低調



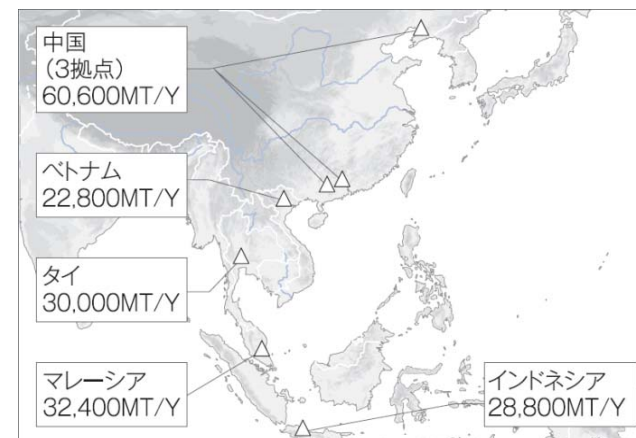
'10年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

2010年3月期 第2四半期 主要事業の個別概況(合成樹脂)

売上高 対前年同期比 $\Delta 31.2\%$ 286億円減少

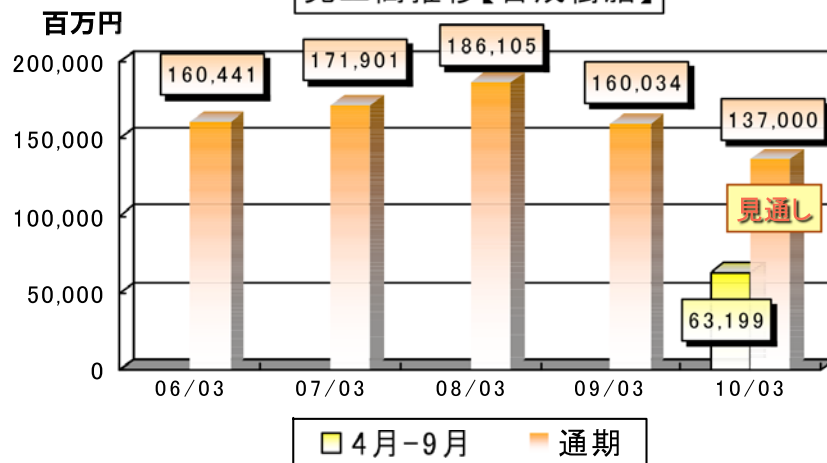
- 海外では東南アジア、北東アジアで第2四半期以降回復傾向
- 国内高機能樹脂は、自動車や電子関連を中心に回復の兆し
- 国内汎用樹脂は、需要の落ち込みは比較的緩やかであったものの減少
- フィルム製品や機能フィルム製品は、冷夏や新型インフルエンザの影響で食品包装用の荷動きが悪く、低調に推移
- スポーツ資材はインドネシアに新たにグリップテープ製造工場を設立し、原材料から製品までの一貫体制を確立

樹脂コンパウンドの年間生産能力

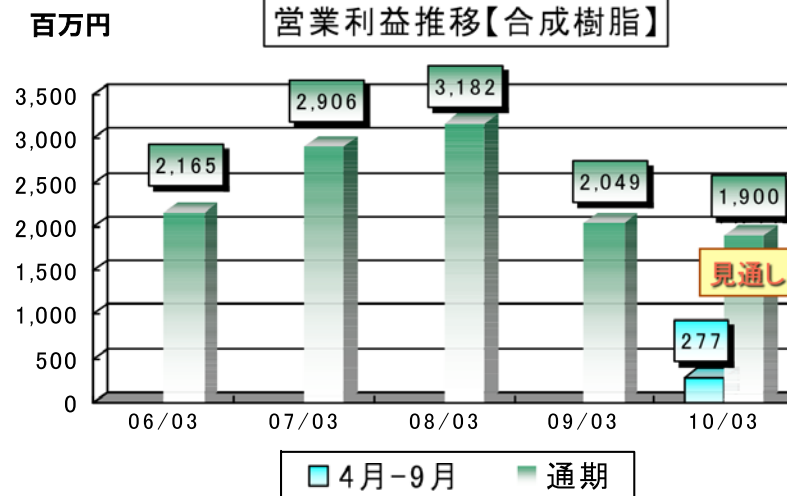


174,600MT/Y 5カ国7ヶ所 (2009年4月1日現在)

売上高推移【合成樹脂】



営業利益推移【合成樹脂】



'10年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

2010年3月期 第2四半期 地域別概況

東南アジア ⇒ 対前年同期比 $\Delta 42.2\%$ 156億円減

- ✓ 昨年末の急速な落ち込みに対する回復がみられ、加工部門の生産も徐々に増加したものの、依然厳しい状況
- ✓ シンガポールでは、情報電子関連を中心に回復がみられたものの、力強さに欠ける
- ✓ タイは欧米向け輸出の比率が高く、回復に出遅れ感がある

北東アジア ⇒ 対前年同期比 $\Delta 32.1\%$ 143億円減

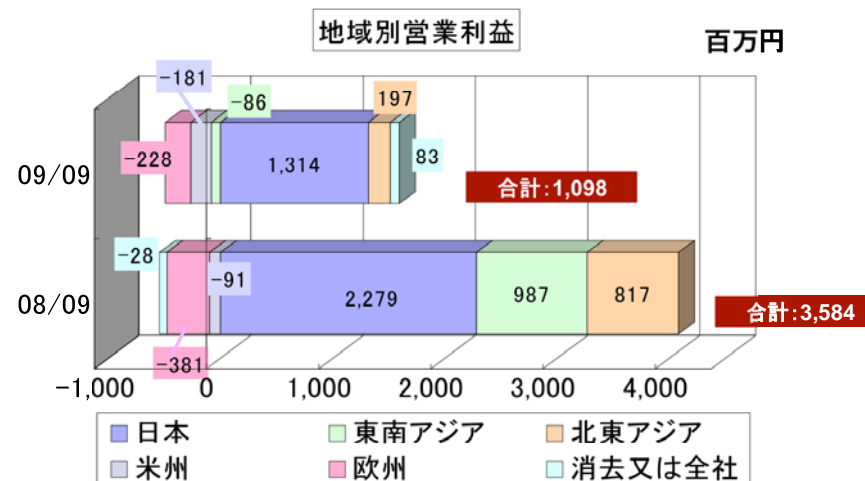
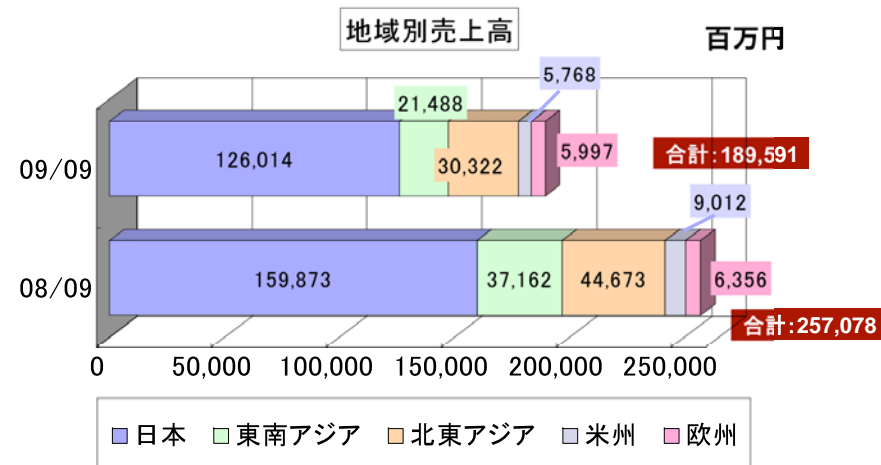
- ✓ 台湾、韓国では中国向け液晶関連部材が順調
- ✓ 香港、華南では、中国政府の内需振興策が寄与し、液晶関連商品を中心として販売が回復する一方、樹脂コンパウンド事業は低調
- ✓ 華東では内需関連を中心として急速に回復

米州 ⇒ 対前年同期比 $\Delta 36.0\%$ 32億円減

- ✓ グループ会社清算に伴うコスト負担が大きく、全体では引き続き厳しい状況
- ✓ 半導体関連の各種材料は大幅に減少
- ✓ 食品関連は、関係会社での冷凍水産食品の販売は若干減少

欧州 ⇒ 対前年同期比 $\Delta 5.6\%$ 3億円減

- ✓ フランスのファインケミカル事業は苦戦
- ✓ イギリスでは、半導体関連が大幅に減少したものの、太陽電池関連は堅調に推移
- ✓ ポーランドでは在庫調整が一巡し、液晶ディスプレイ用材料の販売が前年同期並みに回復



2010年3月期 第2四半期 連結子会社概況

- NOBEL ENTERPRISES LIMITEDが清算手続き中により第2四半期末で連結の範囲から除外
- SIKグループを100%子会社化 ⇒ 海外合成樹脂ビジネスの更なる発展を目指す
- 稲畑工貿(大連保税區)有限公司が重要性の増加により連結子会社化

	連結子会社状況(内訳)		
	国内	海外	合計
連結子会社	13	41	54
持分法適用関連会社	4	6	10
合計	17	47	64

2010年3月期 通期業績予想

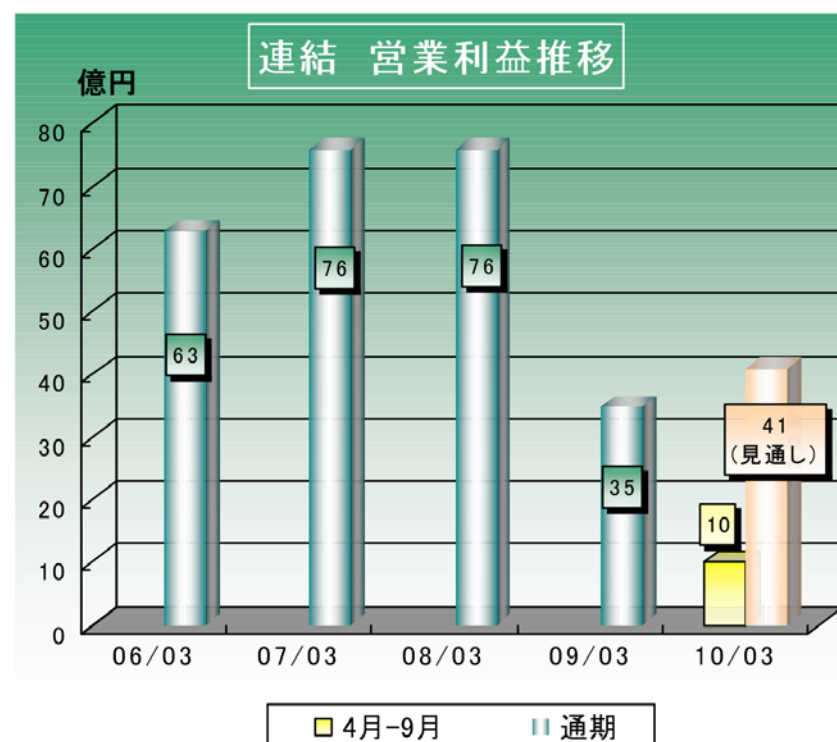
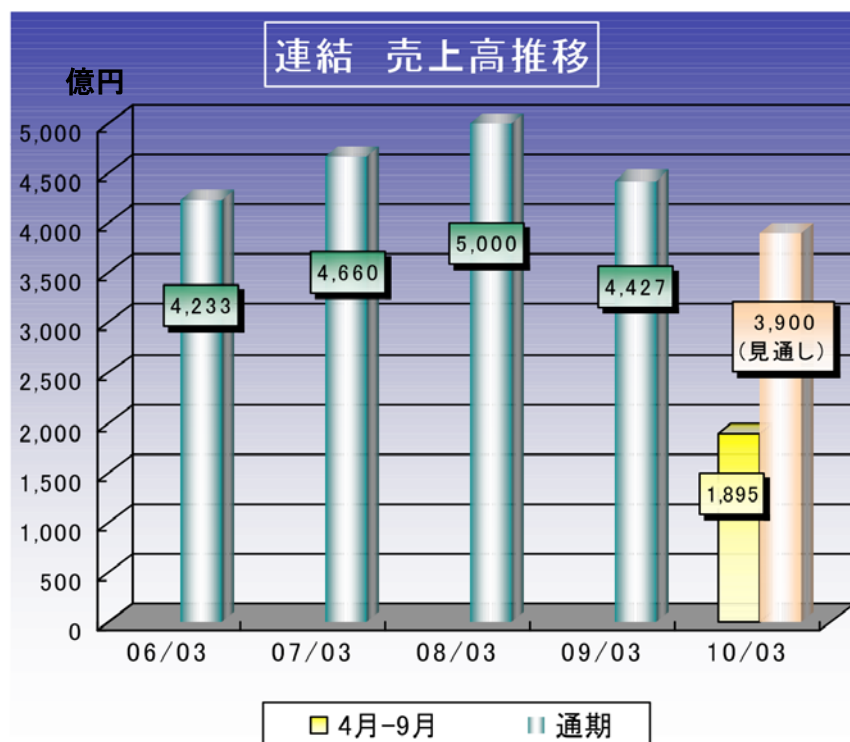
(単位:百万円)

	2010年3月期 第2四半期	達成率 (%)	2010年3月期 通期見通し (11月10日公表)	2010年3月期 通期見通し (5月11日公表)	前回通期 見通し比
売上高	189,591	48.6%	390,000	405,000	△ 15,000
営業利益	1,098	26.8%	4,100	3,500	600
経常利益	1,029	30.3%	3,400	3,000	400
当期純利益	428	25.2%	1,700	1,500	200
1株当たり 当期純利益	6.58	—	26.13	23.05	—

'10年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

売上高と営業利益の推移と見通し(06年3月期～10年3月期)

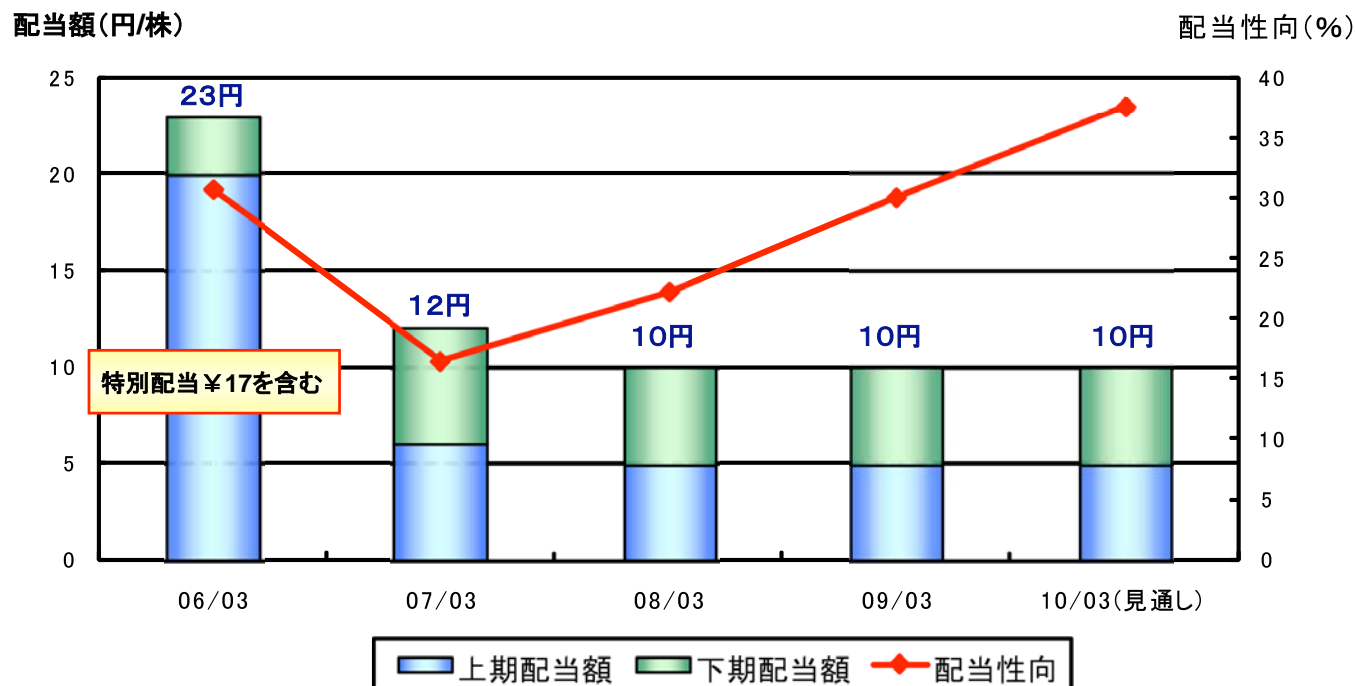
- 引き続き主力の情報電子、合成樹脂を中心に積極的かつグローバルな事業展開を推進



'10年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

株主への還元

- 事業収益やキャッシュ・フローの状況などを勘案し、連結純利益の20%~30%程度を目安とし、今後の企業価値向上に向けての中長期的な投資などを考慮しつつ総合的な判断で決定。
- 利益水準に関わらず、原則として1株あたり最低限年間10円の配当金の維持に努める。



今後の方針

- シナジー効果の実現を重点に置いた事業の再構築を推進
- 有望なアライアンスの締結の促進と自社企画プロジェクトの拡充
- グループ会社を含む全社員で内部統制の推進に取り組むとともに内部統制システムの充実を図る
- 引き続き国内外の連結経営を強化、収益力の向上、人材の育成に一層注力する
- 資金の効率化の更なる向上と財務体質の強化